

美術部会

竹内 美弥

コロナ禍の図工・美術室から見えたこと

コロナ禍で休校して以来の数か月の空白。休校時の子どもの様子や教員の思いと実践の交流をしたいという気持ちがつのっていました。自分達自身の感染の恐れも強く感じながら、美術教育サークルと合同で思い切って部会を開きました。

*

☆休校中の課題の交流では、子どもの過重な負担にならないよう配慮しながらも、オンラインで、『疫病を鎮めるといふアマビエ』のデザインをしよう』の課題に取り組んだ実践では、デザインをする場合の題材選択の大切さが語られた。いやなことに負けず、楽しく人間らしいことをと願う気持ちを支えようという小学校の専科からの報告。

☆シラバス通りにオンライン授業を進めることが当然とされる大学で、幼児の造形教育を学ぶ学生の指導に当たっている教員からは、オンラインによる何百人も

の学生一人一人への個別指導による過重労働が報告されました。不登校の大学生がオンラインで授業に参加できるような利点もありながら、実技の課題をどうするかの難題も。

☆学校休校期間中、学童クラブは朝8時過ぎから子どもを受け入れに。普段は毎日の宿題学習中心だったクラブで、子どもたちは、折り紙や工作の課題に取り組んで大満足だったが、教え合い伝え合う姿が毎日のように見られ、子どもは自然と密に。どうすればよかったのか。

☆特別支援のデイサービスでも朝から子どもを迎えることになり、工作に子どもたちが夢中になった。学校での学びのないう3か月、どの子どもも学びに飢えていた。

☆中学3年生の切り紙による平面構成では、コロナによる毎日の生活への不安、友達との交流が絶たれてしまった寂しさ、受験を迎える中で授業もない不安な

どが様々に表れていた。

☆年度末、校内展覧会の直前に休校を余儀なくされた私立小学校の専科が、工夫して展示を実施。見学をした保護者が「作品を鑑賞できた時間は久しぶりに心躍る素敵な時間になった」と感謝の言葉を送ってくれたと報告。卒業制作作品を取りに来た子どもたちの、学校にいることをかみしめるような姿が忘れられないとの言葉に共感。等々

*

☆学校が再開して、実際に授業時間が少ない中でどのようにカリキュラムを組み、教材を準備するのか。今までと同じ題材でも画用紙のサイズを小さくする、授業の準備片付け時間はどうするのか？感染対策で図工室の机上の仕切りの工夫は？共用の道具のアルコール消毒はどの程度が科学的なのか？考えるべき課題は今後も山積みです。休校や分散登校の時に子どもと共に発見できた楽しい温かい空間はなくなったものが多いけれども、子どもにとって学校と図工・美術の持つ意味を再確認させてくれたと実感しています。

(多摩市・公立中)